（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 ７ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立特別支援学校坂戸ろう学園 ）

目指す学校像	多様な社会の中でたくましく生きるための力を育む、地域から信頼される学校

重点目標	1　幼児児童生徒が主体的・対話的に学ぶ力を身に付け、自己表現力を磨く授業実践を積み上げる。 2　東京2025デフリンピック大会や創立70周年に向けた取組を通して、ろう・難聴理解、手話の普及啓発 　活動を行い、地域とのつながりをより一層深める。 3　心身の健康を維持した働き方改革と大規模改修工事に係る安心安全な教育活動の確保を実現する。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

1　授業改善
2　開かれた学校づくり
3・4　その他

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
　　生徒　　名
　　事務局(教職員)　　名

※　デフフッドの視点：ろう者である自分自身をありのままで探求し、ろう文化を学んでいく

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（２月１日 現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・主体的・対話的に学ぶ力の育成及び自己肯定感の醸成は継続し、実態に応じた幼児児童生徒の良さ・発想力・表現力を伸ばす教育活動に移行していく。 ・全日本聾教育研究大会東京大会（R6）で得た情報を生かし、関東地区聾教育研究会定例研究会（R9）開催に向けた準備を計画的に進めていく。	①教科等指導における主体的・対話的に学ぶ力の育成及びICTを活用した自己表現力の育成。 ②関東地区聾教育研究会定例研究会に向けた全校研究テーマの設定と研究計画の策定。	①生成AI、Canva等学習支援アプリを取り入れ、表現力の選択肢を広げる。 ①学級活動、自立活動、文化祭、スピーチ発表、児童会・生徒会を通して「セルフアドボカシー（自己肯定感）」「デフフッド」の視点を取り入れた教育活動を展開する。 ②全日聾研東京大会を参考にし、定例研究会に向けた全校研究テーマと学部研究の方向性をまとめる。 ②校内授業研究・研究協議を活用して授業改善を実施し、専門性の維持継承を図る。 ②きこえとことばの教室グループ学習の実践をより発展させ、まとめる。	①ICT活用を目的とした職員研修を、ニーズに応じて実施することができたか。 ①職員研修で身に付けたICTスキルを、授業で実践することができたか。 ①デフリンピックを通して調べ学習、障害理解、世界で活躍するアスリート等への興味関心が高まり、主体的・対話的な学びにつなげることができたか。 ②３年間を見越した全校研究テーマを設定し、学部研究の方向性を決定できたか。 ②専門性の維持継承につながる年次研授業研究・研究協議及び学部研究を実施できたか。 ②難聴児童生徒対象グループ学習の内容や参加方法の充実を図り、実践をまとめることができたか。				
2	・坂戸市障害者福祉課との連携や市内小中高等学校との交流において、東京2025デフリンピックを取り上げ、聴覚障害や手話に対する普及活動を進めていくことで効果が期待できる。 ・ホームページや生徒会Instagramを活用し、発信力を高めていく。 ・創立70周年に向けて、行事や外部のイベントにおいて本校のあゆみを取り上げ、児童生徒のデジタル作品の発表の場を設定する等、意識を高める。	①東京2025デフリンピック東京大会への参画意識を高めた聴覚障害教育への理解啓発の推進。 ②創立７０周年に向け、坂戸市や企業と連携した共生社会実現への取組	①世界で活躍するアスリートや国際手話等を取り扱った様子をホームページや生徒会Instagramに投稿する。 ①保護者対象手話動画でも配信する。 ①市内小中高等学校との交流の際に、手話とデフリンピックを取り上げる。 ②行事や児童会・生徒会活動において、本校のあゆみを取り上げ、デジタルアートを通して坂戸ろう学園らしさを再発見する。 ②坂戸市役所における広報活動、企業（ウエルシアに薬局、埼玉りそな銀行）との共同発信に取り組む。	①デフリンピックコーナーの設置、応援グッズの作成、観戦を通して参画意識を高めることができたか。 ①ホームページ・Instagram、学校だよりにおいて、魅力ある情報発信ができたか。 ①市内小中高等学校との交流において、デフリンピックのPRが実施できたか。 ②校内にある卒業制作の再確認や幼児児童生徒の画像・動画作品等をPR活動に活かすことができたか。 ②手話カフェ、聴覚障害に配慮した店舗改善案など、企業と共同で取り組むことができたか。				
3	・情報共有システムをZoomからTeamsに移行し、円滑なコミュニケーション体制を整備していく。 ・不祥事防止ミニ研修を職員会議後に実施し、互いに声を掛け合う等未然防止を徹底していく必要がある。 ・職員在校時間については、一人一人の職員の改善策を明確にしていく。	①健康維持を重視した職場環境の整備と不祥事防止の取組の徹底 ②幼小棟大規模改修工事（４月～９月）に関する情報共有と共通理解の徹底、予定変更への柔軟な対応。	①各職員の平均退校時間を設定し、面談等で得た効果的な案を周知し、業務改善につなげる。 ①職員会議後に不祥事防止ミニ研修を実施し、未然防止を強化する。 ②事務室と学部間のコミュニケーションを円滑に行い、情報共有、共通理解を徹底する。 ②保護者に適切に情報提供を行い、理解協力を促し、事故防止を徹底する。	①自己評価シートに係る面談等で各職員の目標を確認し、無理のない計画の下、在校時間縮小を達成できたか。 ①学部、分掌部会、委員会等において優先順位を付けた業務削減を検討できたか。 ①不祥事防止ミニ研修を実施し、事故発生０を達成できたか。 ②事務室と学部職員がTeamsにより情報共有・共通理解を徹底できるよう整備できたか。 ②保護者に対してはホームページ、マチコミメールを活用し、工事の進捗状況や変更点を適切に配信し、安心安全が確保できたか。				